

旭日単光章を受章

阿部武敏さん
(廿六木)



永年、地域に根差した産業の発展や地域振興などに大きな功績を挙げたとして、阿部武敏さんが旭日単光章の栄光に輝きました。

阿部さんは、昭和52年から株式会社マルハチの代表取締役を務め、平成20年4月から、同社の取締役会長に就任。商品開発力の強化に注力し、多くの製品を生み出すとともに、地域雇用の拡大に貢献されました。

また、平成20年5月から6年間、庄内町商工会会長を務め、「一店逸品運動」の充実や「笑顔で元気なあいさつ運動」の展開など、リーダーシップを発揮されました。現在は庄内町観光協会会長を務めており、「庄内町グリーン・ツーリズム推進協議会」の設立や、「月山龍神マラソン」の運営などの中心的な役割を担い、本町の観光振興の面でも大きく貢献されています。

阿部会長は「まさか自分が勲章を受章するとは考えたこともなかった。28歳で代表取締役となり、兄弟と社員一丸となって必死に頑張ってきた今回の受章は、マルハチ全体にいただいたものみたいへん。ありがとうございます」と話しました。

藍綬褒章を受章

佐藤了一さん
(館)



民事調停委員、家事調停委員として長年尽力された功績が称えられ、佐藤了一さんが藍綬褒章を受章されました。

佐藤さんは設計業の傍ら、平成12年4月から民事調停委員、平成14年4月から家事調停委員を務めており、約20年の間、数々の問題の解決を図ってきました。当事者双方の話をよく聞き、公平、中立の立場で平等に扱うことを心掛け、一般人の目線で考えることを信念にし、活動されてきました。

調停の依頼には極力応じるようにしていることで、「当事者から『ありがとう』と感謝の言葉をいただける時、人のためになって良かったと嬉しく思う」と笑顔をこぼしました。

今回の受章については「自分が貰っていいのかと尻込みしたが、大変名誉なことだと思ひ、ありがたく頂戴しました。これからも今ままでやって来たことを引き続き継続して、当事者と一緒に考え適切な問題解決を図っていききたい」と振り返りました。

地方教育行政功労者表彰を受賞

菅原正志さん
(南野)



この度、前庄内町教育委員会教育長の菅原正志さんが、文部科学大臣より地方教育行政功労者表彰を受賞しました。

菅原さんは、平成24年8月から平成27年8月までの3年間、教育委員長に任命され、その後令和3年8月までの6年間は教育長に就任。通算9年もの長い間、町の教育行政の振興にご尽力されました。

菅原さんは、「教育委員長時代は八幡スポーツ公園ができ、サッカー場については今では県内で一番利用されるようになった。また、教育長時代はランドセルの色を選択できるようにしたこと、図書館の整備事業がスタートしたことが印象に残っている。図書館については、紆余曲折はあるが完成に向けて動いていることが嬉しい」と話しました。

受賞の感想をうかがうと、「在職中、一緒に仕事をした職員のみなさんに感謝を申し上げたい。この受賞は、職員のみなさんが日々がんばってくれたおかげであり、教育委員会を代表して自分がいたのだというなもの」と当時一緒に働いた職員への労いの言葉があふれていました。

ヤマザワカップ第38回山形県女子駅伝競走大会3位入賞



11月20日、上山市本庄公民館前から山形メディアタワー前までの20.5キロを、女性選手5人で襷渡しを行う「ヤマザワカップ第38回山形県女子駅伝競走大会」が行われ、鶴岡・田川チーム(斎藤貴志監督・家根合)で佐藤明日美さん(馬場)、渡会紫野さん(千河原出身)、今田和来さん(余中2年・和光町)の3人の本町選手が走り抜きました。

前日19日の結団式では、選手紹介などが行われました。選手宣誓では、渡会紫野さんが「中学生と自分たちの経験を活かして、1つでも上の順位にいききたい。粘り強く走り、前の選手を1人でも多く抜き、昨年の6位入賞以上の結果を残したい」と力強く宣言しました。

当日は、渡会紫野さんが2区の4.5キロ、今田和来さんが3区の中学生区間で2.6キロ、佐藤明日美さんがアンカー5区の5.3キロを走り、結果は堂々の3位入賞。本町選手の活躍が光る大会となりました。